

# すまちゃん

高知 五年 まなか

「すまちゃん。」

と、いつもより少し大きな声で、すまちゃんをよんだ。六月の初めの木曜日の朝、たのまれていたぶつだんの花をとどけるためだった。でも、すまちゃんの声はしなかった。すまちゃんの家を見たら、前の門の所に置いてあるプランターに草がはえているのに気がついた。花はさいていたけど、草にかくれてあまり見えなかった。家の窓はカーテンが全部しまっていた。私は、（どうしたんやろう）と心配になった。

すまちゃんというのは、去年の五月十四日に五十八才で死んだなぼやんの奥さんだ。でも、なぼやんとすまちゃんはけっこうしていなかった。すまちゃんの家は私の家の前だ。むすめのくるみちゃんは、横の家に住んでいるけど、すまちゃんは一人ぐらしだ。すまちゃんは、今年六十三才になる。

すまちゃんは、なぼやんのそう式の時、かた手にハンカチを持ってずっとなっていた。なぼやんの写真があって花をいっぱい置いてあるところではないていた。そんなすまちゃんを心配して、すまちゃんの周りにいる人が多かった。それでもすまちゃんは、なっていた。すまちゃんは、その日からずっと暗かった。

すまちゃんは、明るい人だった。なぼやんがいなくなるまでは、楽しいことをいっぱいしゃべってくれたし、私が元気がない時は元気づけてくれた。私は、早くもとのすまちゃんにもどってほしいとずっと思っていた。でも、一年目のほうが過ぎてても、もとのすまちゃんにはもどらなかつた。

次の日の夕方、学校から帰って家に入ろうとして後ろを見たら、すまちゃんが二階のまどの所にすわって空をながめていた。むらさきの服を着て、部屋は真っ暗がりだった。

その夜、おふろに入っていると、開けていたまどの外から、音楽が聞こえてきた。なぼやんのおそう式で流れていた音楽だった。なぼやんが好きだった音楽だった。まどの外を見たら、すまちゃんの家の上階のまどが開いていて、まどの所にラジカセが置いてあった。みどりのランプがピコピコ光っていた。空はくもっていた。私は、（すまちゃんやったんか）と思いながらまどをしめた。

おふろを出る時、もう一度まどを開けた。さっきまでついていた電気は消えて、音楽も聞こえなかった。

次の日は土曜日だった。朝、私は、お母さんが育てている植物に水をあげようと外に出た。六時を少し過ぎていた。

すまちゃんが道路にいた。すまちゃんは、鳥かごを持っていた。鳥かごには、はだ色の布がかぶさっていた。すまちゃんは、鳥かごの戸を空に向けて開けた。中から一羽の鳥が飛んで行った。羽がむらさき色のルリだった。すまちゃんは、また空に向けて戸を開けた。もう一羽のルリが飛んで行った。二羽のルリは、なぼやんがかわいがっていた鳥だった。私は、（あの鳥は、なぼやんの所に行きたいんやおか）と思いつながら、鳥を見ていた。鳥はすぐにどこかに飛んで行った。

私は、すまちゃんに、

「おはよう。」

と言った。すまちゃんは、こっちを向いた。でも何も言わないで、すぐに家に入った。私は、ずっとすまちゃんの後姿を見ていた。風はふいていなかったけど、私の所だけ風がふいているようだった。

お昼過ぎ、自分の部屋からすまちゃんの家を見ると、すまちゃんのがきにせんたく物をほしていた。チェックの服や、黒いTシャツや、上着があった。私は、（全部なぼやんのや）と思いつながらずっと見ていた。

すまちゃんは、次の日も、なぼやんの着ていた服をほしていた。たくさんあった。

月曜日の朝、学校へ行っていると、すまちゃんの家の前に、クリーニングの車が止まった。車から女の人が出てきて、なぼやんの服を全部持っていた。

私は、（すまちゃんは、なぼやんをわすれたいんやろうか）と思っ

た。

このころから、すまちゃんは、あいさつをしたり、花の話をしたりするようになった。でも、あまり笑わないし、なぼやんの話もしなかった。

それから四ヶ月ぐらいたった。十月の終わり、すまちゃんがプランターの草を取っていた。プランターは三つあって、草はいっぱいはいえなかったのに、一日できれいになった。

次の日、学校から帰っていたら、門前の道路にすまちゃんがいた。きれいにしたプランターに花を植えていた。二つのプランターに三つずつ小さいパンジーを植えていた。なぼやんの好きな黄色とすまちゃんの好きなむらさきだった。私は、パンジーを見ながら、（なぼやんのことは、わすれてないんや）と思った。

私が、

「きれいやねえ。」

と言うと、すまちゃんは、

「そうやおお。」

と私の顔を見てくれた。ニコニコしていた。今までのすまちゃんとは全然ちがっていた。うれしかった。

お母さんも、すまちゃんのことを心配していたので、

「すまちゃん、元気になったで。」

と教えたなら、お母さんは、

「ほんなら、今夜、すまちゃんの好きなカレーにして、一緒に食べよう。」

と言った。

すまちゃんも賛成してくれて、その夜、すまちゃんとお母さんたちと一緒にごはんを食べた。すまちゃんは、たくさんしゃべって、カレーライスをおいしそうに食べていた。



(指導 坂田次男)